

# 2025（令和7）年さけます来遊状況（第3報：10/31 現在）

## 4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 北海道の年齢別来遊数では、3年魚（2022年級）、4年魚（2021年級）および5年魚（2020年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側では4年魚が平年の12%と1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道日本海側では4年魚が平年の27%と1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道のサケの平均重量は2.93kgで前年を下回り、1994年以降で2番目に小さい

\*1：平年とは、1994（平成6）～2024（令和6）年の平均値

### ・サケの年齢組成（北海道）

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、10月31日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2021年級）が全体の62%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が32%、3年魚（2022年級）が5%となりました。前年同期との比較では、3年魚は56%、4年魚は33%、5年魚は52%と前年を下回っています（図1）。平年同期との比較では、3年魚は21%、4年魚は20%、5年魚は14%となっており、3年魚および4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています。

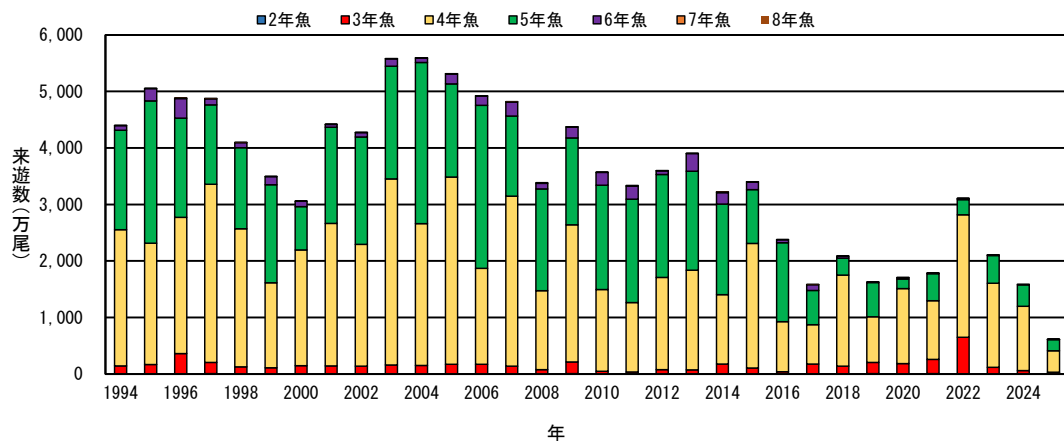


図1. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道）。

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の21%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の43%の水準となっています（図2）。

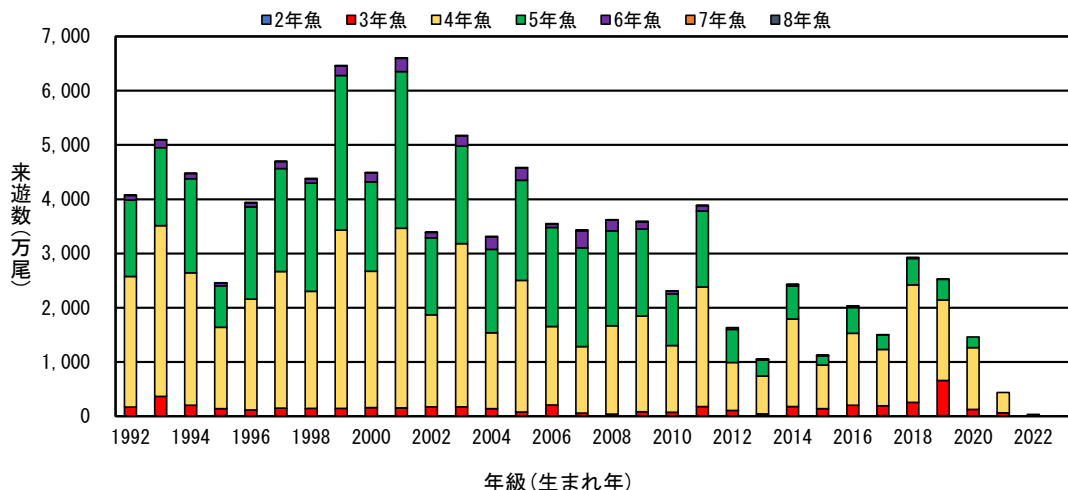


図2. 10月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2021年級）が全体の74%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が18%、3年魚（2022年級）が8%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の40%、平年同期の18%、4年魚は前年同期の41%、平年同期の12%、5年魚は前年同期の40%、平年同期の4%となっており、4年魚および5年魚は1994（平成6）年以降最も少ない値となっています（図3）。

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2021年級）が全体の57%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が37%、3年魚（2022年級）が5%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の73%、平年同期の23%、4年魚は前年同期の30%、平年同期の27%、5年魚は前年同期の55%、平年同期の23%となっており、3年魚および4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図4）。

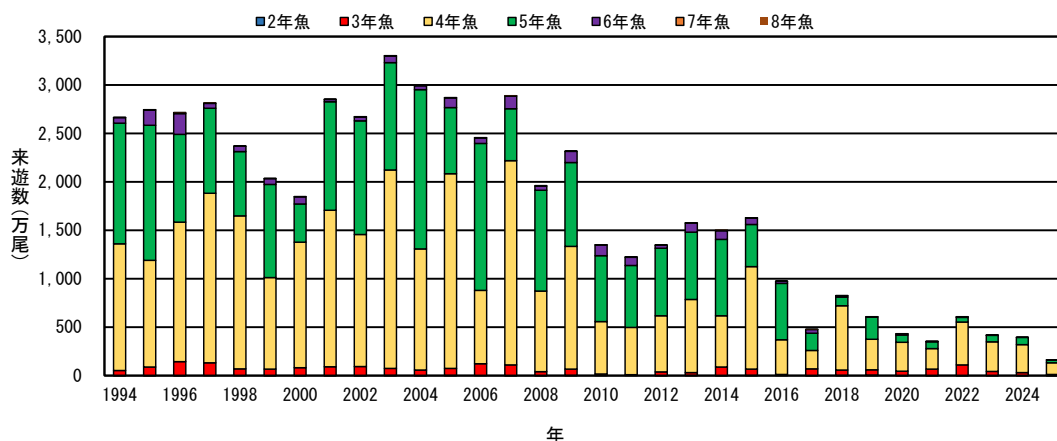


図3. 10月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

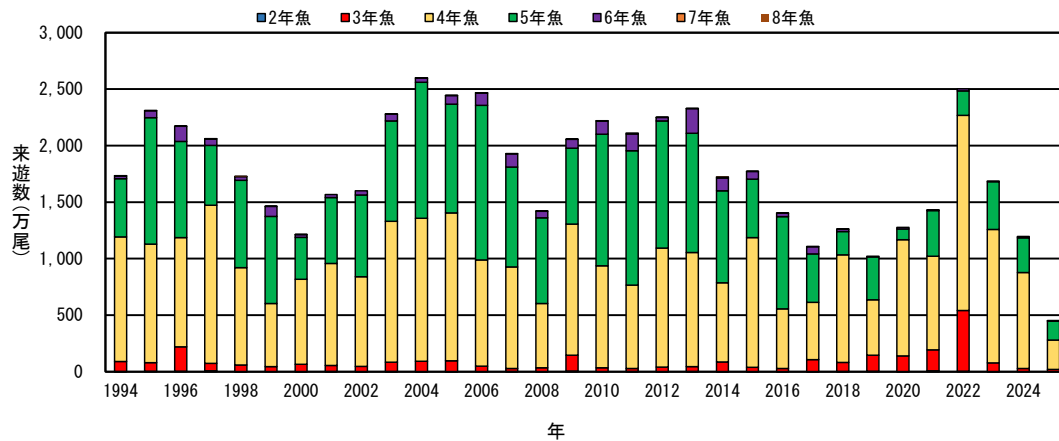


図 4. 10 月 31 日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

#### ・サケの体サイズ

北海道における 10 月 31 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.93kg であり、前年同期の平均重量 2.97kg を下回りました。

また、10 月 31 日現在の平均重量は 1994（平成 6）年以降で 2 番目に小さい値となっています（図 5）。

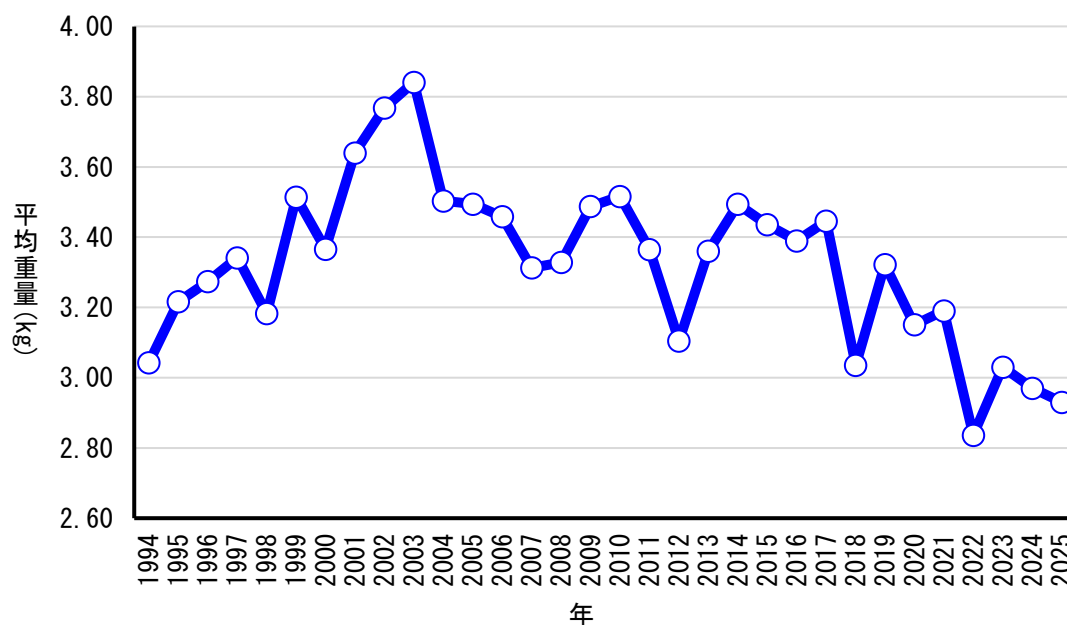


図 5. 10 月 31 日現在のサケ平均重量（北海道）.